

2013 年度 (平成 25 年度)

浦和明の星女子中学校入学試験問題

(第 一 回)

国 語

(50 分)

注 意

1. 試験の開始まで問題用紙を開かないこと。
2. 答えはすべて解答用紙のきめられたところに、
はっきり書くこと。なお、解答用紙の※印欄の
ところは記入しないこと。
3. 印刷のはっきりしないところがあったら、手を
あげて係りの先生にきくこと。
4. 字数制限のある場合は、句読点も一字と数えて
答えること。

受験番号

① 次は、『NHK 美の壺 銭湯』所収の町田忍の文章です。本文を読み、後の問いに答えなさい。なお、設問の都合上、本文を変更している部分があります。また、『 』内の表現は、直前の語の意味を表します。

日本人は世界に類をみない、お風呂大好き民族といっても過言ではない。それは日本の気候が高温多湿で、水源に恵まれ、温泉も多い、という要因からと思われるが、はたしてそれだけだろうか。

事実、② 現存の銭湯に限っても、全国で約五千軒ほどが営業をしていることでも理解できる。銭湯を知ること、日本人の入浴観や広く美意識にまで迫ることができるとはならないだろうか。

かつて仏教を広める目的として、大きな寺が入浴施設を建て一般庶民に入浴の機会を与えたことに、その発祥があるという。このことを布教のための入浴というところから「施浴」と呼んだ。銭湯で湯船にどっぷり浸かった年配のお客が「あー極楽極楽」とかお経などを思わず唱えてしまうのも、そんなことを意識してのことだろうか。

すなわち日本人にとって、この入浴という行為は少なくとも、どこかで極楽浄土の世界とつながっているのかも知れない。

日本人の入浴というものは、単に体の汚れを落とすこともさることながら、気分を癒すことにも重点を置いている点、機能重視の現在の欧米諸国の入浴方法と大きく異なっている。

一言で言うならば、日本の入浴文化は「浮世の垢を落とす」ということも考えて発達してきたのである。

単に入浴をするだけの施設ならば、③ 機能面を考えたシンプルな（無駄がない）設備にすればよいわけだが、銭湯は違う。東京を中心とした地域における銭湯様式を例に挙げるならば、宮造りと呼ばれる、神社仏閣のような外観をもつものがかつては定番とされ、現在でも数多く残っている。一方、地方においても同様で、東京ほど銭湯様式の定番はないものの、むしろある意味では、色々な様式が出現しており、個性の強い興味深い銭湯が多く残っている点に注目したい。

私はこれら東京に限らず全国の銭湯を約三十年かけて約三千軒以上訪ねてみて、

関係していた。⑤ ペンキ絵の中の水とその真下にある湯船とは同じ空間にあるということがある。

富士山は末広がり縁起がよく、霊山でもある。そこからそがれた水がやがて湯船へと入り込んでいくということは、あたかも自分がその風景を見ながら湯に浸かっている気分になれる。そして、その他に富士山で清められた水の中に自分の身をゆだねる、という考え方が根底にあると考えるとよいだろう。

⑥ この富士山の絵に、実は季節はない。山は雪のある二月頃、緑は五月の新緑の頃という。これは日本人のイメージの中にある富士山を描く、という意味からである。人気のある場所は、三保の松原、西伊豆からのもので、それらが最も多いという。

（中略）

ペンキ絵と並んで絵としては他に、タイル絵がある。タイル絵はペンキ絵のように描き替える必要はなく、独特の美しい輝きを保つことができるのが特徴といえる。

（中略）

タイル絵の題材であるが、特に鯉が多いことに気づく。これは絵師によると「お客コイコイの洒落と、⑦ 滝登りの縁起からです」との答が返ってきた。

（中略）

このようなタイル絵を多く使用しているのも、東京型銭湯の特徴といえる。ペンキ絵もタイル絵も、派手さを好む東京人の気品にぴったりと合ったのだろう。銭湯ごとに豪華さを競った関係で、東京型銭湯が全国でも最もタイル絵の多い様式として発展したのである。

さて、以上は主に東京型銭湯における特徴について色々と述べてきた。次に関西型銭湯の特徴について説明してみよう。

結論からいうと、関西型銭湯は⑧ 的にできている。例を挙げるならば、ペンキ絵はない。年に一度描き替えるくらいなら、いっそのこと手入れの楽なタイル貼りにしたほうが良い、という考え方である。

これは黄色いケロリンの桶の大きさが、東京の銭湯より関西の銭湯のものの方が一回り小さいことから理解できる。これは大きいと湯をむだに使うってしまうからという理由からきている。

関西の銭湯でも、大阪と京都ではその様式も多少異なってくる。⑨ 大阪型銭湯の

銭湯における日本人の美意識の謎について、多少なりとも迫ってみることができた。そこで判明したのは、まず、銭湯というものは、その他の観光地の温泉のように娯楽として行くところではなく、日常生活の中において日々使用する施設であるということである。しかし銭湯はそんな日常性の中における非日常性という点が重要なのだ。浮世の垢を落とすために、あえて非日常的空間を造る必要がある。

かつて江戸時代における銭湯にも、湯船のある部屋に入るために、神社仏閣のカーブのある唐破風屋根や鳥居の形をした入口をくぐるという非日常性があった。

したがって、宮造りといわれる外観や、鯉のいる庭、富士山の巨大なペンキ絵や色のきらびやかなタイル絵などは、⑩ それをとつても入浴には必要のないものなのである。

すなわち、これらのいわば無駄と思われる対象は全て、非日常的空間を構成するための装置といえることができる。

銭湯は五感を全開にして入浴できる空間である。特に視覚的にも色々な仕掛けがある、東京の定番宮造り銭湯は、外観からして豪華な造りだ。特に入口上部の唐破風と呼ばれる独特のカーブのある屋根は、本来は極楽浄土への入口のサインという意味も含まれているという。その屋根には、鯉魚という飾り彫刻もある。これはいわばその銭湯のステイタス（階級）ということになる。すでに入口に入る前にお客に対しての強烈なアピールでポイント稼いでいることになる。

入口でまず気分を変え、いざ脱衣場へと入ると、そこは天井の高い広々とした空間が広がる。もともと脱衣場の天井が吹き抜けなのは東京型銭湯様式の特徴でその他の地域の銭湯は二階が住居部分となっていることが多い。

さらに外に目を向けると庭がある。池には大きな鯉がゆったりとその銀鱗を輝かせて泳いでいる。夕涼みしながらこの庭を眺めるのは至福の時である。

さて服を脱いだら次は、いよいよ浴室へ入る。浴室でまず目に入るのは正面の壁前面に描いてある、富士山などの巨大なペンキ絵である。実はこのペンキ絵も東京型銭湯の特徴のひとつである。

（中略）

富士山の絵に限らず、銭湯のペンキ絵には必ずといってよいほど、水、すなわち海・湖・川が入っている。これは東京型銭湯の湯船がペンキ絵の真下にあることも

特徴は、いかにも関西人のもつユーモアを表現している様式が多い点にある。また東京のように、銭湯は宮造り中心という定番様式がないので、個性的な様式の銭湯が多い点にある。それらの中でも、特に昭和初期築の洋風モダン（現代的）な銭湯が多い。すでにこの手の様式の銭湯は、東京では営業中のものが一軒も残っていない。大阪府生野区林寺にある源ヶ橋温泉は、いかにも浪花を代表する銭湯といつても過言ではない。外観は、昭和初期に流行したアール・デコ様式（装飾様式の一つ）に日本の伝統様式を取り入れた、「帝冠建築」と呼ばれる独特のものとなっている。それは屋根上のシャチホコの下に自由の女神があるところからも理解できる。源ヶ橋温泉に限らずこのような大阪のかつてのモダン銭湯の多くが、新築時には二階がダンスホールやビリヤード場などであったという。東京型銭湯は天井が吹き抜けのためこのような使用のされかたはなかったわけで、そんな意味からすると、関西型銭湯は、二階が休憩室として利用されていたという江戸時代の銭湯の伝統を引き継いでいる、といってもよいだろう。

浴室にも絵と呼ばれるものはほとんどなく、実にシンプルな空間となっているが、使用されている部材は御影石などと豪華になっている。

一方、京都における銭湯の特徴はというと、やはり長い歴史のある街ということもあり、外観も和風木造建築が多い。規模こそ東京型銭湯より小さいものの、みやびの美しさを凝縮した仕掛けを随所にみることができ。前出の源ヶ橋温泉が大阪におけるキング・オブ銭湯だとしたら、船岡温泉は京都におけるキング・オブ銭湯である。

外観にも小ぶりとはいえカーブのある唐破風がついているが、全体的には東京のそれより質素である。しかし、一歩中に入ると、そこは別世界となる。オーバーなまでのデコレーションは美術館にいたような錯覚におちいってしまう、といつても過言ではない。京都という地だからこそ、これらを造る職人にも恵まれていたのだらう。

脱衣場から浴室に行くまでのトンネルのような通路は、ルーツ（起源）がイペリア半島といわれている、レリーフ状の豪華な「マジヨリカ（彩画陶器）タイル」で埋めつくされている。あの世とこの世を結ぶトンネルのような気がしたのは私の考え過ぎだろうか。

銭湯がYであることを証明するかのように、それらのタイルは輝いている。さて、銭湯における美のツボを見てきた。銭湯というものはつい最近までは、美的対象として見られることはほとんどなかった。

歴史や由緒のある建築物は保存されたり、それなりの手がさしのべられ大切にされている。反面庶民の身近で長年利用されたもののほど、姿を消してしまうことが多いのが現状である。大森貝塚の発見で有名なモースは、かつて明治初期の庶民が使用していた、ごくありふれたもの、金平糖、蚊取線香、神棚等々を資料として本国に送っていた。結果、日本人が保存していないそれらは後世たいへん貴重な資料となったわけである。

銭湯が、入浴料金を徴収する商売として登場してすでに約八百年ほどになる。庶民の文化であり、それらの伝統がまだ引き継がれて残っている、ということ自体が重要なのである。そこには、庶民のささやかなつかの間の至福を楽しむ空間がある。そこで、銭湯をまるごと美術館と考えてみるというのはどうだろうか。神社仏閣などを鑑賞するような気持ちになってじっくりと観察してみよう。脱衣場や浴室は、いわばギャラリーということになる。

天井の造りや立派な庭を、寺の庭園を見るような気分で見よう。池のあるものや、枯山水（水を使わずに山水を表現する庭園様式）風の庭もある。浴室に目をやれば、巨大な富士山などの絵があり、タイル絵はその題材も色々で、まるで絵巻物を見ているような気分になてくれる。

銭湯は地域の入浴施設であり、その土地のフウド習慣に合ったかたちで発展してきたものである。したがって、その土地ごとに実に様々な様式があるのは当然のこと。そんな銭湯をひとつの美術館として観察してみると、意外な発見があるかも知れない。もちろんそれらを鑑賞した後は湯に浸かって欲しい。浸かってこそ本来の銭湯の美のツボが理解できるというものである。

問5 次の文章は傍線部④中の「入浴には必要のないもの」が銭湯に造られる理由を説明したものです。空欄に入る適切な語句を本文中からそれぞれ指定の字数で抜き出し、文章を完成させなさい。

温泉は娯楽として行く場所であるので、「入浴には必要のないもの」を造って「A（六字）」を演出する必要がある。一方、銭湯には本来そのような演出は必要とされない。なぜなら、銭湯は「B（四字）」と密着したものだからである。にもかかわらず、あえてそこに「A」を造りだすのは、人々が銭湯に「C（八字）」ことも求めたからである。

問6 傍線部⑤「ペンキ絵の中の水とその真下にある湯船とは同じ空間にある」とは、どのようなことですか。富士山のペンキ絵を例とした場合の説明として、最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア ペンキ絵の中の水とその真下の水とは、どちらも富士山の神聖な水であると湯船に入る者に気づかせるということ。
- イ ペンキ絵の中の富士山の水とその真下の水とが接することで、湯船に入る者に湯量をより多く感じさせるということ。
- ウ ペンキ絵を眺めながら湯船に入る者に、富士山の神聖な水に浸かっているような気分を味わわせるということ。
- エ ペンキ絵が湯の表面に映って、湯船に入る者にあたかも富士山の頂上にいるような気分を味わわせるということ。

問1 太線部a・bの漢字の読みをひらがなで答え、cのカタカナを漢字に直しなさい。

問2 傍線部①「現存の銭湯に限っても、全国で約五千軒ほどが営業をしていることでも理解できる」とありますが、どのようなことが「理解できる」のですか。その内容として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 日本人と欧米人の入浴の方法が大きく異なっているということ。
- イ 日本の気候が高湿多湿で入浴をするのに適しているということ。
- ウ 日本人が世界的に見ても特に入浴を好む民族であるということ。
- エ 日本人の入浴観や美意識がどのようなものであるかということ。

問3 傍線部②「『あゝ極楽極楽』」意識してのこと」とはどのようなことを述べているのですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 湯に浸かることによって極楽にいるかのように癒された気分になるのは、銭湯の発祥がそもそも施浴にあったためということ。
- イ 湯に浸かって汚れを落とし、身を清めて極楽を目指そうとするのは、銭湯の発祥がそもそも施浴にあったためということ。
- ウ 湯に浸かりつつ入浴の機会への感謝の気持ちで「極楽」という言葉で表すのは、銭湯の発祥がそもそも施浴にあったためということ。
- エ 湯に浸かりながら「極楽」と繰り返し唱えて布教に貢献しようとするのは、銭湯の発祥がそもそも施浴にあったためということ。

問4 傍線部③「機能面を考えたシンプルな設備にすればよい」とありますが、「機能面」とはどのようなことですか。本文中から十字で抜き出し、答えなさい。

問7 傍線部⑥「この富士山の絵に、〜という意味からである」という部分から、どのようなことが読みとれますか。その内容として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 一つの絵の中に違う季節の景物が盛り込まれているにもかかわらず、日本人の多くがこれらの景物と富士山とを結びつけて思い描いているために、この構図に違和感を抱いていないということ。
- イ 一つの絵の中に違う季節の景物が盛り込まれているにもかかわらず、それらの景物がありきたりなため、日本人の多くはこの構図に季節を感じにくくなっているということ。
- ウ 一つの絵の中に違う季節の景物が盛り込まれているが、それは見る人に自由なイメージを広げさせる工夫であり、実際に日本人の多くはこの構図から様々な季節を感じているということ。
- エ 一つの絵の中に違う季節の景物が盛り込まれているが、これらの要素を取り込むことはペンキ絵の伝統的な約束事であるため、日本人の多くはこの構図に違和感を抱いていないということ。

問8 傍線部⑦「滝登り」は「鯉の滝登り」を省略した表現です。「鯉の滝登り」の意味として適切な四字熟語を次から選び、記号で答えなさい。

- ア 不老長寿
- イ 立身出世
- ウ 商売繁盛
- エ 恋愛成就

問9 空欄Xに入る語として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 一般
- イ 伝統
- ウ 近代
- エ 合理
- オ 理想

問10 空欄Yに入る最も適切な語を1ページの本文中から漢字四字で抜き出し、答えなさい。

問11 次の各文は、波線部A～Cについて説明したものです。「東京型銭湯の特徴」の説明にはAを、「大阪型銭湯の特徴」の説明にはBを、「京都における銭湯の特徴」の説明にはCを、「どれにもあてはまらないもの」にはDを、それぞれ答えなさい。

I 外観は和風木造建築が多く、職人に恵まれていたため、みやびの美しさを凝縮した仕掛けがほどこされている。

II 風呂桶が大きめで、二階が様々に活用されており、二階を休憩室として利用していた江戸時代の伝統を引き継いでいる。

III 洋風モダンな銭湯が多く、個性的な様式によってユーモアを表現しながら、浴室には御影石を用いる豪華さがある。

IV 宮造りの外観が多く、派手さを好む気質から銭湯ごとにタイル絵やペンキ絵を多く使用して、豪華さが競われた。

問12 次の文章は、本文を読んだ小学六年生の星子さんが筆者の考えを要約して、感想をまとめたものです。空欄に入る適切な語句を本文中からそれぞれ指定の字数で抜き出し、文章を完成させなさい。

銭湯は長年の間、庶民の生活の中で親しまれてきました。その存在は「A(七字)」だったので、貴重なものとして大切に保存されてはきませんでした。もちろん「B(四字)」としてとらえられることもなかったようです。しかし、銭湯は「C(五字)」を後世に伝える資料にもなりうる」と筆者は考えていて、なるほどと思いました。

時代と共に古い物がより新しく便利な物に変わっていく中で、銭湯は今でもその形を多く留めています。そのわけは、銭湯が毎日の暮らしに忙しい庶民にとって、「D(十八字)」として愛されてきたからだと思います。私は銭湯に行ったことがありません。家にお風呂があるので行く必要はないと思っていました。でも、この文章を読んで、実用だけでなく、銭湯を「E(三字)」として興味深く眺めることで、さまざまなことを発見する楽しみがあると感じました。私も実際に「F(三字)」することでしたか味わえない美のツボを体感してみたいです。

(そんなこと、ないわよ。灰田くん、あれであんがい頼りになるのよ。みんな知らないんだわ)

さよは必死に灰田くんをかばったが、むろん男の子たちにさよの内心の声が届くはずはない。

灰田くんは、まだ黙ったままだ。

「もうさ、灰田のことなんて、どうでもいいじゃないか。みんな、帰ろうよ」

野村くんは言った。

そうだ、そうだ、という声が続いて、男の子たちは床の上に投げだしてあったランドセルをとりあげ、ひよいひよいとしよってゆく。

さよは、あわてて音楽室の向かい側にある女子用のお手洗いに身を カクした。

どやどやという足音がすっかり行き過ぎるまで、さよは息をひそめていた。

五分ほどたつてから、さよはそうと足音をしのばせて、お手洗いから出た。音楽室の扉は、開け放してあった。首をのばして、さよは教室の中をうかがう。

灰田くんだけが、残っていた。

先ほどとまったく変わらない位置、二つのグループにはさまれて責められている場所に、灰田くんは無表情で突っ立っている。

「灰田くん」

さよは声をかけた。

灰田くんは、答えない。

「何もなくて、よかったね」

そうさよが言っても、灰田くんはさよの方を見ようともしなかった。

「怖かったね。あたし、何もできなくてごめんね」

灰田くんは、顔をそむけた。

「見てたの」

小さな声で、灰田くんは聞いた。

「うん。ごめん」

さよも、小さな声で答えた。

「どうして見てたの」

灰田くんはまだ顔をそむけたままだ。さよは ⑧ 途方にくれる。

「ごめん」

「鳴海さんが悪いんじゃないだろ」

二 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。なお、設問の都合上、本文を変更している部分があります。また、「」内の表現は、直前の語の意味を表します。

鳴海さんと灰田くんは同じクラスの小学四年生です。二人は図書館で出会った不思議な本に導かれ、現実世界と離れた「夜の世界」の中でも交流しています。

次は、クラスの男子が喧嘩をして塩原くん側と野村くん側の二つのグループに割れた際、どちらのグループにも加わりうとしなかった灰田くんが、放課後の音楽室に呼び出された場面です。

「ひきようだぞ」

「いくじなし」

「早くどっかに決めろ」

何人もの声がとぶ。

さよは、いたたまれなくなった。灰田くんは、① のように口を閉ざしたままだ。そして、灰田くんが黙りつづければつづけるほど、灰田くんを責める声は勢いをましてゆく。

けれど、しばらくするうちに、さよは気がついた。灰田くんを責めているのは、塩原くん側の男子だけだということに。野村くんは、と見れば、腕組みをして、なんだか困ったような顔をしている。

ほんの少しだけ、さよはほっとする。

(野村くん、灰田くんを助けてちょうだい)

さよは折った。するとどうだろう。さよの内心の声を聞きとめたかのように、それまで腕組みをして何も言わなかった野村くんが、口を開いたではないか。

「もう、いいよ」

野村くんは、落ちつきはらった声で言った。

「こういうのって、よくないよ」

さすがは、野村くん。さよはほっとして、廊下に座りこみそうになつてしまう。

「一人を全員で責めるのって、いじめてるみたいじゃないか」

野村くんはつづけた。

「それに灰田がどっちについても、まったく変わりはないだろ」

まわりから、押し殺した笑い声がもれた。

「でも、ごめん」

④ だから、どうして謝るのっ」

急に灰田くんの声が大きくなり、さよはびくつとする。

「野村」

灰田くんがつぶやいた。

「あいつ……」

「野村くんが、どうしたの」

さよは聞いたが、灰田くんは答えない。

「鳴海さん、このこと、絶対に斉藤先生には言わないでよ」

灰田くんはさよの顔をきつとにらみながら、言った。

「わかった」

さよは小さく答えた。

それっきり、また灰田くんは黙りこんでしまった。帰ろうかと、さよが言っても、灰田くんは動こうとしない。

さよは、先に音楽室を出た。階段のところで少し待ったけれど、灰田くんはいつまでも出てこなかった。

翌日、灰田くんは学校を休んだ。その日も朝から、⑤ しのつく雨が降っていた。

その後、灰田くんは三週間学校を休みます。そして、寝ている間に「夜の世界」へすべり込みます。

次は、灰田くんが「夜の世界」で野村くんの家に強引に遊びに行った場面から始まります。本文中の「ミイラ」は、野村くんの父親が大切にしていた朝鮮人参のことです。

同じころ、灰田くんの足もとにのびている影も、まがまがしく「不吉に」かたちをかえつつあった。

髪はまるで蛇のようにうねり、口からは牙のようなものがつきでている。体ぜんたいは実際の灰田くんの数倍もあり、体つきは ⑥ イヨウにこつこつしている。

「ミイラは、もううよ」

そう言うなり、灰田くんは桐の箱をひったくった。灰田くんの影が、ますます大きくなってゆく。髪はさかだち、かたちは大きく広がってゆく。影は次第にもともとの黒い色ではなくなり、はちみつ色をおびはじめたのである。

けれど灰田くんは、自分の影がそんなにも恐ろしいものになっていることに、気

がついていない。

「やめてよ」

野村くんは必死の形相で言った。

「やめるもんか。これはほくがもうんだ」

灰田くんは箱の中から朝鮮人参を取り出した。そしてそのまま、パジャマでいっぱいにくれていた体操服の袋に、ぎゅうぎゅう押しこむ。

「あっ」

野村くんが叫んだのと、それは、同時に起こった。

朝鮮人参が、ぼっきり折れてしまったのだ。見事にまっぶたつに、人参は割れていた。

青ざめている野村くんの顔を、灰田くんはあらためてじつと見る。それから、自分の手の中にある、折れてしまったミイラの片割れも。

灰田くんは、はっと我に返った。

「いったいほくは、今の今まで、何をしていたんだろう」

もちろん灰田くんは、自分がいかに居丈高^{いんけだか}だったかを、覚えていた。そして、そのことがとつても気持ちよかったことも。

（でもほく、野村くんにいばつたり、意地悪したりするつもりなんか、ほんとはなかったのに）

ほんものの灰田くんは、人にいばつたり意地悪をしたり、ということ、今までほとんど一回もしたことがないのだ。その力がなかったから、ということもあるけれど、そもそも灰田くんには、そういうことは向いていないのだ。

「折れちゃったね」

今までの勢いが、しゅーっとしぼんだような調子で、灰田くんはつぶやいた。

「折れちゃったよ」

野村くんも、くりかえした。

「どうしよう」

「ほくきつと、お父さんにものごく叱られるよ」

野村くんは、うなだれている。

「お父さん、怒るとすごく怖いんだ」

誰かがみながみ叱っている野村先生の姿なんて想像もできなかったけれど、げんに野村くんはこうしてふるえている。

野村医院の階段を走りおりていった。

（中略）

灰田くんは、医院のすりガラスの扉を押す。もうすぐ日が暮れようとしている。医院の中は暖かかったけれど、外はずいぶん気温が下がっている。

これからどこに行こう。灰田くんは、立ちすくんだ。足もとからは、まだほちみつ色の影が細長のびている。

⑦「ほく、「灰田くん」じゃない、いつものほくに帰りたいよ」

心の底から、灰田くんは願った。

「エス（灰田くんの飼犬）だ」

灰田くんはつぶやく。

天井の板には、いつもの三つの節目があった。節は、エスの顔にそっくりである。

灰田くんは戻ってきたのだ。夜の世界から、こちらの世界へと。

頭がぼんやりしていた。時計を見れば、時刻は午後のもう早い時間だった。夜の世界へと灰田くんが引きこまれた時から、時計の針の角度はぜんぜん変化していない。

「夢だったのかな」

そうであってほしいと願いながら、灰田くんはつぶやいた。

だって、いつもの夜のようには鳴海さんと一緒ではなかったし。へんなねずみも出てこなかったし。できるはずのないことが、すすいできてしまったし。

ぼんやりとした頭の中で、さきほどまでの出来事が夢だったのかもしれないという証拠を、灰田くんは必死にさがしとめていた。

灰田くんは今、とても後味の悪い思いをしている。なぜなら、こんかいの夜の冒険によって、灰田くんは自分でも知らなかった自分の心に気づいてしまったからだ。

まず恥ずかしかったのは、自分がまるで王様のようにいばつてしまったことだった。けれど、それはまだ、笑って忘れてしまえることである。あちらの世界のことなんて、誰も見ていないのだから、ばれることもないし。

それよりも灰田くんが胸をつかれたのは、自分の中にある激しい劣等感を知ってしまったことだった。

ばかにされても、平気だ。ほくにはちゃんと、価値があるんだもの。

「そんなに怖いの、野村先生って」

「うん、患者さんにはやさしいけど、ほくにはすごくきびしいんだ」

野村くんはしゃがみこんでしまった。

（悪いことをした）

灰田くんは突然、激しく「ゴウカイ」はじめた。人参が折れてしまった後になつて、ようやくあちらの世界での、本来の灰田くんが戻ってきたのだ。

おや、灰田くんの影が、少しだけ縮んでいるではないか。牙だつてさつきほどとはがついていないし、蛇のようにうねつていた髪も、静まりはじめている。色だつて、ふつうの黒に近くなっていた。

でも、まだ油断はできない。もしも灰田くんがふたたび野村くんに向かって権力をふりかざそうとしたならば、影はきつとその一瞬をのがさず、はちみつの瓶^{びん}の底にたまった液体の底に沈んだかすのような、不吉にこつた色になるにちがいない。そして、おびやかすようなかたちには広がってゆくにちがいないのだ。

実のところ、灰田くんは迷っていた。

このまま「灰田くん」として野村くんにいばり続けたあげく、知らんふりをして折れたミイラを持ちかえつてしまふべきか。

それとも、あちらの世界と同じ、しおらしい灰田くんに戻るべきか。

「ねえ灰田くん、ほくと一緒に、お父さんに謝ってくれないかい」

野村くんが、さがるように頼んだ。

灰田くんの影が、さあつと色を変える。⑧影は、一瞬で濃いはちみつ色になった。

灰田くんの心は、^d千々に乱れていた。心の奥の奥では、灰田くんは素直な気持ちで野村くんと一緒に謝りに行きたいと思っていた。けれど、心のなかほどでは、謝りに行くのは気が進まなかった。そして、心のうわつづらに近いところでは、謝りに行くのなんて、まっぴらごめんだと思っていた。さらに、一番のうわつづらでは、「灰田くん」らしく、堂々と謝りに行って、ほめられたいものだとかうらんでいた。

そのうちに、自分がいったい何を望んでいるのか、灰田くんはわからなくなつてしまった。

影は、大きく広がつたり縮んだり、はちみつ色になったり、元の黒に戻つたりと、めまぐるしく変化している。

最後に灰田くんは、折れた朝鮮人参を体操服の袋に入れた。そのまま灰田くんは、

灰田くんはいつも、そう思っていた。いや、思いこもうとしていた。

でも、心の奥底では、灰田くんは悲しかったのだ。いやだったのだ。くやしかったのだ。どうして人は、ほくのすばらしさを認めようとしななんだ。どうしてほくは、人からばかにされなきゃならないんだ、と。

ほんとうの自分の気持ちを知ることは、誰にとつてもつらいことだ。正直に自分の悲しみやくやしさを見つめるのは、苦しいことだ。でも、灰田くんはもう、自分のその気持ちを知らないふりはできなくなつてしまったのだ。

⑨「なんだか、みじめだな」

灰田くんはしょんぼりと思う。

その時、灰田くんは自分の手ににぎられているあるものに、気がついた。

それは、ぼっくりと折れた朝鮮人参の片割れだった。

「あっ」

灰田くんは、がばりと上体を起こした。

夜の世界での野村くんとやりとりが、灰田くんの頭によみがえってくる。

あのあと、夜の世界の野村くんは、いったいどうしたのだろう。怖い野村先生に、どうやって朝鮮人参がなくなつてしまったわけを釈明したのだろう。

「やつぱり、夢じゃなかった」

灰田くんはつぶやいた。

エスが吠えている。灰田くんは、手の中の朝鮮人参をじつと見つめた。

「ミイラじゃないよな、これはどう見ても」

灰田くんの中で、⑩一つの決心が固まろうとしていた。

あれが夢ではなかったのなら、どうしても灰田くんはその決心を実行にうつさなければならぬ。

はずみをつけて、灰田くんは起き上がった。ベッドのスプリングが、きしきしと鳴る。庭ではエスが、嬉しそうに吠えつづけていた。

（川上弘美著『七夜物語 上』より）

問1 太線部 a・b・c のカタカナを漢字に直し、d の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

問2 傍線部①は「沈黙する」という意味の慣用表現です。空欄に入る適切な語を漢字一字で答えなさい。

問3 傍線部②「まわりから、押し殺した笑い声がもれた」とありますが、この時の「まわり」からもれた「笑い」の説明として、最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア みんなで一人を責めるのはよくないと気づき笑うのをためらっているが、灰田くんの存在を無視するような野村くんの発言に従わないと、自分たちがいじめられると思い、同調して笑っている。

イ みんなで一人を責めるのはよくないと優等生ぶった発言をした野村くん自身が灰田くんを見下すようなことを言ったため、言動が矛盾しているのではないかと苦笑している。

ウ みんなで一人を責めるのがよくないことも、灰田くんがどっちについても全く変わりが無いのも分かってきているのに、改めてそれを得意気に発言した野村くんを哀れんで笑っている。

エ みんなで一人を責めていると見られては困るので笑うのをためらっているが、灰田くんを軽んじたともいえる野村くんの発言をその通りだと思い、灰田くんを見下して笑っている。

問4 傍線部③「途方にくれる」の意味として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア どうすることもできず気がめいってしまう。

イ どうすることもできず自分を責めてしまう。

問7 傍線部⑥「影は、一瞬で濃いはちみつ色になった」について次の各問いに答えなさい。

(1) 「影」とは何を象徴したのですか。本文中から十四字で抜き出し、答えなさい。

(2) 「影」が「濃いはちみつ色にな」とはどのようなことを表していますか。それを説明した次の文の空欄に入る漢字二字を自分で考えて答えなさい。

灰田くんが友達に対し「 」感を抱きたいという思いにとらわれること。

問8 傍線部⑦「ぼく、戻りたいよ」について、「灰田くん」と「いつものぼく」の違いを明らかにして、「いつものぼくに戻りたい」と願った理由を分かりやすく説明しなさい。

問9 傍線部⑧「なんだか、みじめだな」とありますが、ここでの「みじめ」とはどのようなのですか。その内容として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 人から価値を認められないことに、本当はくやしさを感じている自分と向き合わなければならないみじめさ。

イ 今までどんなにばかにされても自信を持っていたのだが、人に認められない中でだんだん自信を失っていくみじめさ。

ウ 夜の世界では人に対して堂々と振る舞えるのに、現実では決してそのように振る舞うことができないみじめさ。

エ 他の人よりも自分が劣っている存在だということを、夜の世界の冒険をするまで少しも気づかずにいたみじめさ。

問10 傍線部⑨「一つの決心」の具体的な内容を「 ということ」に続く形で、本文中から十五字で抜き出し、答えなさい。

ウ どうしたらよいか分からず困ってしまう。

エ どうしたらよいか分からずあきらめてしまう。

問5 傍線部④「だから、どうして謝るのっ」とありますが、灰田くんがこのように言う理由として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 本当は自分のことなど気にかけてもいないさよから心配そうに声をかけられるのは、かえって不愉快に感じられたから。

イ 自分の頼りなくみつともない姿をさよに見られたことで自尊心が傷つき、これ以上あわれに思われたくなかったから。

ウ 困っていた自分を見ていてだけで助けてくれなかったさよに、今さら謝られても許す気持ちにはなれないから。

エ 何も悪いことをしていないのに、自分が悪いのだと責任を感じて必死に謝るさよの低姿勢な態度が理解できないから。

問6 傍線部⑤中の「しのつく雨」とは「激しく降る雨」のことですが、ここでは灰田くんの様子を暗示しています。その内容として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア たいした理由もなく簡単に学校を休むような灰田くんが、その態度を両親から厳しく責められる様子。

イ クラスのみんなにうまく気持ちを伝えられなかった灰田くんが自信をなくし、悲しんでひどく涙を流す様子。

ウ クラスのみんなとうまくいかないという灰田くんの悩みが、一気に洗い流される様子。

エ 自分のことを誰もわかってくれないことに対する強い反発心が、灰田くんの心にわき上がる様子。

